



日本SPF豚協会だより

2021. 10
No.85

提 言

SPF豚農場認定細則の改訂について

一般社団法人日本SPF豚協会

会長

北島 克好

協会の基幹事業と言えるSPF豚農場認定制度は1994年にスタート、今年で27年になりました。その間何度か認定規則や細則、設備・管理基準等を改訂し、2016年、認定規則の全面見直し、条文化を実施してから5年の年月を経ました。この間、国の飼養衛生管理基準との整合性を含め新規則に即した細則の整備を行ってきましたが、本年6月の総会で承認されましたので、その概要をご紹介します。

旧細則等の課題・問題点等

- ・細則とは別にGGP・GP農場とCM農場向けにそれぞれ農場防疫設備基準・診断及び防疫管理基準・診断がある。
- ・農場防疫設備において、基準と実態に開きがかなり見られる部分がある。
- ・農場防疫設備・管理診断において、規則や基準との整合性が図られていない部分がある。
- ・5年毎に行っているCM農場防疫設備の点検について、明文化されていない。

以上の課題を解消するために、①基準類の細則への一本化 ②国の飼養衛生管理基準への対応 ③慣例判断の明文化 ④雑則の追加 ⑤運用者であるピラミッドの意見を反映する、などを柱に整備に取り組みました。

改訂にあたっては、条文作成の専門家でもある、独立行政法人農研機構動物衛生研究部門の山田俊治博士に協力をお願いし、全面的な監修のもとに検討を進めました。山田先生にはご多忙の中、長きにわたりひとかたならぬご尽力を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

新細則の概要

新細則は第一章「総則」第二章「防疫設備及び防疫管理の基準」第三章「ヘルスチェックの調査及び基準」第四章「CM農場の生産成績の調査及び基準」第五章「雑則」で構成されています。第一章では、目的、SPF豚農場における豚の定

義等を明記しました。二章では防疫設備及び管理基準、三章ではヘルスチェック基準、四章ではCM農場の生産成績基準について、それぞれ整理しました。

旧細則等の趣旨や内容をなるべく変更することなく、用語の統一を図り、重複を排して一つの細則として整理・規定しました。また、現在、実施されているが明文化されていない運用事項や、申請資料等様式についても整理・統一を行うこととしました。

SPF豚農場の防疫設備・管理に関する基準は、SPF豚農場以外の一一般の養豚農場と明確に区別しつつ現状に則した内容としました。

特に第二章で「SPF豚農場は、規則における「整った衛生環境」となる区域（SPFエリア）を明確に設定し、業を営みながらそこに病原体が侵入しないように管理を行わなければならない」ことを明記し、防疫設備・管理基準を「病原体侵入防止対策」と「汚染拡大防止対策」に分けて規定しました。その他については国が定める飼養衛生管理基準を順守することを基本とすることとしました（第5条）。

また、第三章では大規模被災や社会情勢の急変等非常時にあっては、細則改正を行うことなく協会が限定的な検査の代替法等を適用できることを明記しました（第10条3項）。

さらに、第五章「雑則」では軽微な変更や修正等は、理事会の了承を経ることなく、認定委員会の審議・了承を経た上で協会会長が行うことができることとしました（第23条）。細則運用に係る疑義・問題点、細則に定められていない事項等については、協会会長は認定委員会の意見に従うことを明記しました（第24条）。

なお、新細則の施行期日は総会承認後の令和3年7月1日としておりますが、今年度を移行期間、準備期間とし、令和4年6月期の認定審査より完全移行することとしております。関係各位のご協力をお願いいたします。

秋のセミナーは 来年1月以降に延期 表彰CM農場が決定 —協会事業推進状況について—

社会情勢が一向に好転しない中、さまざまな制約を受け、協会事業推進もままならない状況が続いております。

先日開催されたピラミッド会議で今後の取り組み方について検討いたしました。

その内容と、今年度の生産成績最優秀CM農場が決定いたしましたのでご報告いたします。

ピラミッド会議における 検討内容

8月27日、協会事務所において、Web会議を併用したピラミッド会議を開催いたしました。当日および開催後寄せられた各ピラミッドの意見をもとに、引き続き検討を重ねていきます。

●セミナーを延期

来年1月末から2月初めの開催に向け準備

昨年度は中止せざるを得なかったSPF豚セミナー、今年は例年同様11月の開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言等が長引き、見通しも厳しいことから、次期尚早と判断、秋の開催を断念し2022年1月下旬～2月初旬に延期することとしました。開催方法や内容については、情勢を見極めつつ判断していきます。オンラインセミナーとの併催も検討しております。会員の皆さんに有

益な情報提供を目的とし、講師候補を絞って準備を進めていくこととしました。

●認定事業について

今号の提言にもある通り、整備された新しい認定細則に基づく認定への完全移行（2022年度より）に対する準備期間とし、申請書類等の新様式切り替えを徐々に進めることとしました。ピラミッド委員や担当者へ書式等の使い勝手を確認、改善を図ってまいります。

認定委員会は新型コロナウイルス感染対策の一環として、実参加と、Zoomミーティングを活用したりリモート参加の併用開催を続けております。昨年度以来取り組んでいることもあり、トラブルもなくほぼスムーズな開催ができています。今後もしばらくはこの形での運用となると思われます。

また、来年度は5年に1度のCM農場の農場施設・設備のチェック実施年です。

点検方法、報告方法等については、ピラミッドと意見交換しながら準備を進めることとしました。

さらに、認定委員会については、運営・審議方法や認定書類の電子化等について検討し、審議時間の短縮、効率化を図ることとしました。

●協会事業の将来像について

事業計画に盛り込まれている、10年後の協会のあり方を審議する諮問委員会の設置に向けて準備を進めます。

まずは2か月に1度開催している役員会において素案を作成・検討します。内容としては①「日本養豚におけるSPF豚—2040年に目指すSPF豚」②「SPF豚認定制度のあり方」③「協会の組織と運営について」の3項目に分け、それぞれ役員ピラミッドで分担して素案を作成、ピラミッド会議等で検討し、年度末までに立ち上げを予定している諮問委員会に中間報告ができるようにします。協会創立60周年となる2029年度に具現化、2040年度には次期構想につなげることを目指します。

今年度の最優秀CM農場が決定

●総合生産成績部門は広島ポーク

商品化頭数部門は八幡平ファーム

ピラミッド会議に先立ち、表彰農場選考委員会(委員長：濱岡隆文・SPF農場認定委員会委員長)が開催されました。今回で15回目の節目となりました。

2018年～2020年度の3年間の成績をもとに選考を行った結果、総合生産成績部門では株式会社広島

ポーク(広島県、全農畜産サービスピラミッド)が、商品化頭数部門では農事組合法人八幡平ファーム(岩手県、全農畜産サービスピラミッド)がそれぞれ最優秀表彰農場に決定いたしました。

広島ポークは初受賞対象となった年から3年連続3回目の受賞、八幡平ファームは7年連続9回目の受賞となります。両農場ともに他の追随を許さない、見事な快挙達成となりました。誠にめでたうございます。

なお、表彰ですが、通常はセミナーの場で農場の方にお越しいただき、賞状とトロフィーを授与させていただいておりましたが、昨年はコロナ禍とあって、協会から現地へ赴き、表彰式を挙行させていただき、その様子をホームページで動画配信いたしました。今回はセミナー開催が年明け以降になることから、ピラミッドと相談の上、農場の意向に沿う形での実施を検討しております。決定次第改めてお知らせいたします。

協会の新型コロナウイルス感染防止対策について

引き続き、三密を避けるため、リモート参加を併催し人数を制限しての会議開催、飛沫防止パネル、アルコール消毒や定期的な換気の徹底、AIによる顔認証体温測定を実施しています。また、事務所内の抗ウイルス・抗菌、接触感染防止のコーティング処理も更新しました。持続効果は1年間です。さらに、入口マットはウイルス・菌を99.99%抑制する加工が施されたものに変更いたしました。今後も感染対策を徹底しながら、会員の皆さんに安心してお立ち寄りいただけるよう努めます。

農場を頻りに訪れる飼料運搬車は疾病伝播の危険が高い防疫対象にもかかわらず、運転者は飼養衛生管理基準(豚：以下法律) 14項の衛生管理区域(農場内)への立ち入り規制で除外され、農場内に立ち入る際の処置は同15、16項で規定されています。

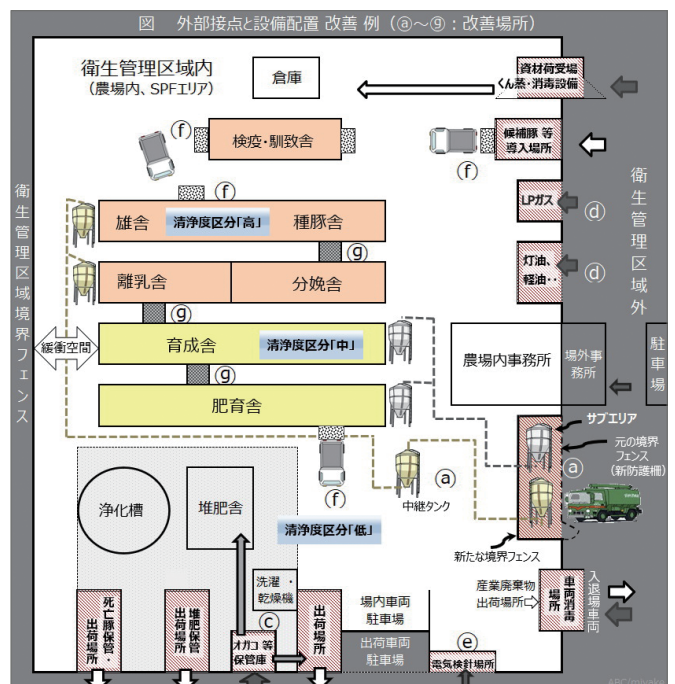
SPF豚認定農場か否かにかかわらず、多くの農場では写真1の様に農場内の荷受けタンクに場外の車両から飼料を投入していますが、その手順は防疫と法律遵守上の問題があります。例えば、運転者が農場内に入るときは上記規定に則り手指の消毒、履物・衣類の交換が必要ですが、農場内にあるタンクのふたを開け閉めするため2往復の出入り毎にその手順が必要で、そのために交差しない場所、つまり最低2枚のスノコと別々の衣類保管場所、当然ながら屋根壁がある場所が必要です。タンクが離れていれば繰り返すので煩雑且つ遵守困難で交差汚染のリスクが高く、農場も衣類・履物管理が必要です。

農場内に車は無論、人を入れるリスクを回避するためには写真2の様にタンクを衛生管理区域外に配置することを提案してきました。さらに、イノシシなどが近寄れない様に赤線部分にはドア付き防護柵を設けます。一部の農場では農場内のタンクのハシゴだけをフェンス外に延ばしている例もありますが感心しません。理由は衣類・履物を替えずに竹馬に乗って入場するのと同じだからです。また、ふたの開閉装置を場外に設置している農場もありますが、開閉不調や強風で開扉するトラブルのほか中を覗いて種類と容量の確認もするので図の様にフェンスの位置替えがベストです。

ところで、日本SPF豚協会が認定細則を本年7月1日付で改正施行し移行中の防疫設備及び管理基準では法律の遵守

を明記し、飼料等の搬入方法はサブエリアからの間接的な搬入と改訂しています。荷受けタンクの位置がサブエリアと解釈したいのですが、CM農場では“猶予”に留まっています。

本年10月1日改正施行の家伝法施行規則では法律に基づく指導や助言に対する改善期限が1週間に短縮され、従来から勧告、命令も規定されています。エリア内の荷受けタンクへの投入作業は防疫と法律の両立が課題です。速やかにフェンスの付け替えやタンクを配置し直すことを勧めます。



第7回

農場バイオセキュリティ強化のための最新情報

バラ飼料受け入れ時の防疫対策

アニマル・バイオセキュリティ・コンサルティング(株)

三宅真佐男

TOPICS

非常用可搬型発電機 「ELSONA (エルソナ)」 のご紹介

全農畜産サービス(株)
種田貴至

我が国は地球温暖化の影響もあり、ここ10年間くらい国土全体が自然災害の影響を受けています。2018年北海道胆振東部地震により北海道全域で大規模停電が発生したことや、その翌年2019年台風15号及び19号により各地で大規模停電が起こったことは記憶に新しいと思いますが、当時これらの停電により、多くの家畜や搾乳後の生乳がその犠牲となりました。

現代人の生活において、電気は暮らしの中で必要不可欠なものであり、さらには通信機器の使用においても同様です。畜産業においては、畜舎内の機器を動かすためや井戸水のポンプ駆動のために、動力を中心とした大型発電機を備えている農場は多いと思います。

一方で、管理棟や事務所さらにはシャワー施設などへの発電機の整備はまだ十分とは言えないのではないかと思います。先述したとおり、現代の養豚業においてパソコンや電話等の通信機器は必要不可欠です。また、SPF農場においては、防疫面でシャワーイン・アウトも必要不可欠なことです。

このような使用電力量に見合うものが、非常用可搬型発電機「エルソナ」です。エルソナは、LPガスとガソリンの両方を燃料として使用でき、極めて使い勝手の良い発電機です。

エルソナ 7つの特長を以下に記します。

- 簡単ワンプッシュスタート：非常時で混乱している時に誰でも確実にエンジンがスタートできます
- バッテリー切れ時には手動でスタート可能：バッテリー切れでも安心してエンジンがスタートできます
- 家庭に設置してある50kgポンペで約30 時間稼働：長時間の停電でも安心です！
- 大容量で安定した出力：テレビ、パソコンなどのOA機器やスマホの充電にも安心してお使いいただけます
- ディーゼル式やガソリン式に比べて低濃度の排ガス：臭いも少なくクリーンで地球にやさしい
- オイルが切れたら自動停止：警告ランプでお知らせもして、エンジンを壊しません
- ガスが切れた時にガソリンも使えるハイブリッド式：非常時でも燃料確保の幅が広がるので安心です

このように、いざという時にきちんと稼働する「エルソナ」は地方自治体や福祉施設を中心に普及がすすんでいます。日本SPF豚協会員の皆様も是非とも「エルソナ」を備えることをご検討ください。

「備えよ常に」(ボーイスカウトの祖ベーデンーパウエル卿の言葉より)

<問い合わせ先>全農畜産サービス株式会社施設・資材事業部

〒135-0041東京都江東区冬木11-17

TEL：03-5245-4871 FAX：03-5245-2424

担当者：笹原

専用ホームページ：https://elsona.jp/

型式		S-5500	T-7500
定格出力 (kVA)		5.0kVA (50Hz) / 5.5kVA (60Hz)	7.0kVA (50Hz) / 7.5kVA (60Hz)
正面			
斜め			
操作パネル			
燃料	ガス	○	○
	ガソリン	○	○
出力	単相 AC100	○	○
	単相 AC200	○	×
	三相 AC200	×	○
	DC12V-8.3A	○	○
	同時出力	×	○
乾燥重量 (kg)		86	90
サイズ L,W,H(mm)		780 × 680 × 690	780 × 680 × 690
ガソリンタンク容量 (L)		28L	28L
エンジンオイル容量 (L)		1.1L	1.1L
LP ガス消費量 (kg/h) ^{※1}	50Hz	1.6 (0.8)	2.2 (0.9)
	60Hz	1.7 (0.9)	2.4 (1.0)
ガソリン消費量 (L/h) ^{※1}	50Hz	1.8 (0.4)	2.5 (0.5)
	60Hz	2.2 (0.5)	2.7 (0.6)
連続運転時間 (h) ^{※2} (50kg ガスボンベ)	50Hz	31.7	22.7
	60Hz	28.9	21.2
連続運転時間 (h) ^{※3} (ガソリン満タン)	50Hz	11.0	7.8
	60Hz	10.0	7.3
ワンプッシュスタート		○	○
リコイル		○	○
オイルアラーム		○	○
オイル切れ自動停止装置		○	○
エンジン種類 OHV4 サイクル単気筒			
付属品 圧力調整器、ガスホース 3m、バッテリー、メンテナンス工具			
希望小売価格 (税別)		630,000	930,000

※1 () 内はアイドリング時の消費量 ※2 連続運転時間は70%負荷で運転可能な時間です。
※3 ガソリン満タン連続運転時間は定格負荷で運転可能な時間です。

協会からのお知らせ

●認定マークデザインの活用をお願いします

協会認定農場産SPF豚マークや認定証のデザインを、ポスターやメニューなどに使用したいという会員、飲食店および販売関係者からの問い合わせをいただいております。認定マークは協会の登録商標ですが、認定農場産のSPFポークを取り扱っている方には無料で使用いただけます。写真は最近の使用例です。

認定マークや協会ロゴなどをご使用いただく際は「デザイン使用申請書」を提出いただいております。使用をご検討の際は、協会事務局までメール(j.spf.a@nifty.com)でお問い合わせ下さい。正しい活用と普及にご協力をお願いします。



●今年もちくさんフードフェアは中止となりました

毎年10月に神奈川県川崎市で開催され、協会も出展していた「ちくさんフードフェア」(日本食肉流通センター主催)、今年も残念ながら中止となりました。

2019年は台風、昨年は新型コロナウイルス感染拡大により、3年連続の中止となりました。

●認定規則・細則の冊子を制作しました

今号の提言にもある通り、SPF豚農場認定細則が整備されたのを受け、認定規則・認定細則をまとめて冊子とし印刷いたしました。会員の皆さんにはピラミッドを通じて配布されることになっております。詳細は協会事務局までお問い合わせください。

プロのシェフおすすめ、カンタン、おいしいSPFポークレシピ



SPFポークバラと キムチのオイスター炒め

●レシピ提供・いただきハンバーグ

オーナーシェフ **中野 裕二** (東京都練馬区)

今回のレシピは、豚バラ肉とキムチという鉄板の組み合わせ、オイスターソースとの相性もよさそうです。たっぷりの野菜で栄養バランスもばっちり。ぜひ召し上がってみてください。

●材料● (1人分)

SPFバラスライス肉 100 g
 キムチ(市販のもの) 約 30 g
 長ネギ 約 20 g
 ニラ 約 10 g
 もやし 約 50 g
 塩、こしょう 適宜
 白ワインまたは料理酒 少々
 オイスターソース 適量
 サラダ油またはごま油 適宜
 キャベツの千切り 適量
 マヨネーズ

●つくり方●

① 長ネギは斜め切り、ニラは6～7cmの長さに切ります。

- ② 中華鍋またはフライパンに油をひき、油が熱くなって少し煙が出てきたら、豚バラスライスを入れ軽く炒めます。
- ③ 長ネギ、もやしを入れて塩、こしょうし、軽く炒めたら白ワインまたは料理酒を少々入れフランベ(火をつけアルコールを一気に飛ばす)します。
- ④ 豚肉と野菜に火が通ったらキムチとニラを入れ、オイスターソースをひと回しほど入れて炒めます。
- ⑤ 皿に盛り付け、キャベツの千切り、マヨネーズを添えたら出来上がりです。

★中野シェフからのアドバイス

分量や炒める野菜、添え物はお好みで。キムチの辛さとオイスターソースの甘味で、コクがあって食べやすい豚キムチになります。白ワインまたは料理酒は入れすぎないように、10ccまたはキャップ一杯ほどにしましょう。

認定情報

●令和3年9月認定農場

(有効期間：令和3年9月9日から4年9月末日まで)

北海道・ササキSPFファーム、(有)山中畜産長沼農場、同千歳農場、(有)浅野農場、(有)高橋畜産、(有)ゲズント農場繁殖センター、同肥育センター、**岩手県**・(有)ケイアイファーム北上農場、(農)八幡平ファーム、(農)ジョイフルファーム八幡平、**茨城県**・常陽醗酵農法牧場(株)、(有)米川養豚場、オヌマファーム、山本ファーム鹿嶋、**栃木県**・サンエス大渡農場、(有)K&Tコーポレーション、**群馬県**・(有)ほそや、**長野県**・(有)岩垂原エスピーエフ農場、(有)クリーンポーク豊丘農場、(農)エスピーエフこがねや第一農場、**千葉県**・岡野茂樹養豚場、(有)東海ファーム倉橋本農場、同猿田農場、同第1肥育農場、同第2肥育農場、(有)菅井物産飯岡SPF農場、(有)下山農場第1農場、同飯岡

※次回認定委員会は令和3年12月2日(木)の予定

農場、**岡山県**・全農畜産サービス(株)岡山A1センター、**鳥取県**・(株)西日本ジェイエイ畜産矢下繁殖農場、同上馬場肥育農場、同矢下肥育農場、**愛媛県**・酒井ピッグファーム繁殖農場、同肥育農場、**香川県**・(株)七星食品多和ファーム、**徳島県**・(株)七星食品阿波ファーム、同美波ファーム、**長崎県**・大西海ファーム七釜肥育農場、同白岳肥育農場、**大分県**・(有)九重ファーム、同第2農場、**宮崎県**・(株)ファームテックえびの種豚場、(株)ナンチクファーム守山北郷農場、同中川農場、**鹿児島県**・(株)シムコ鶴田事業所、同阿久根事業所、(株)ファームテック大口農場、(有)新留養豚、同第2農場、高山大規模実験農場生産農場、同肥育農場、鹿児島いずみ畜産(株)江内農場、同菱刈SPF豚肥育場 (以上53農場)

※6月の認定委員会において3か月間の認定期間延長が認められ、今回認定された農場

(有効期間：令和3年9月9日から令和4年6月末日まで)

群馬県・J A 東日本くみあい飼料(株)利根スウィンセンター、利根沼田ドリームファーム(株)、(株)畜産経営研究所前橋農場、

岡山県・岡山J A 畜産(株)荒戸山SPF農場、**鳥取県**・(株)西日本ジェイエイ畜産名和農場(以上5農場)



SPFのひと特別編

一般財団法人
生物科学安全研究所
(神奈川県相模原市)
URL:<http://www.riasbt.or.jp>



濱岡隆文・生物科学安全研究所所長



協会SPF豚農場認定委員会の濱岡隆文委員長は神奈川県相模原市にある「一般財団法人生物科学安全研究所(略称安全研・RIAS)」の理事長です。今号では特別編として安全研をご紹介します。

濱岡委員長は、農研機構動物衛生研究所(現農研機構動物衛生研究部門)所長を務められたのち安全研に入所、2016年理事長に就任されました。認定委員会学識経験者委員は2015年9月から、2017年6月からは委員長をお務めいただいております。表彰CM農場選考委員会の委員長でもあります。

安全研は1974年農林省(現農林水産省)の試験検査機関「畜産生物科学安全研究所」として発足、まもなく50年となる歴史ある研究機関です。

現在1万6,000㎡の広大な敷地内に研究棟5棟、試験用畜舎11棟、汚水処理施設、焼却炉等の関連施設があります。

畜産関係者や業界ではよく知られた研究所ですが、今や畜産にとどまらず、幅広い試験や検査を受託しています。特に狂犬病の抗体検査施設として日本で唯一農林水産省の指定を受けています。

動物用医薬品・ワクチン・医療機器・水産用医薬品・飼料・農薬・化学物質に関する試験はもちろん、動物用医薬品等開発・承認支援・各種コンサルティングなども強化しています。動物用医薬品等の生物科学に関する最新情報「新動薬情報」も年4回、ホームページからWEB発信しています。

また、極めて専門的で、高い技術力を要するウイルス安全性評価試験や家畜残留試験、ミツバチ幼虫毒性試験、生物応答を用いたWET試験(排水中の生物の反応を直接測定し排水の安全性を評価する方

法)などは、国内でも数少ない試験機関として高い評価を受けています。独立行政法人医薬品医療機器総合機構の医薬品GMP調査による適合取得、食品試験の理化学検査および細菌検査についてのISO/IEC 17025:2005の試験所認定も取得しています。一部の畜舎をヨーロッパの動物福祉基準(Appendix A of the ETS 123)を満たす犬猫用飼育施設に改修しました。

さらに、この夏にはFDA(アメリカ食品医薬品局)の基準をクリアできるような研究施設の改修工事を実施、医薬品メーカーや総合会社との協業による高分子薬の開発にも着手しました。

不勉強で安全研がここまで幅広い検査・試験を行い、多大な貢献をしているとは知りませんでした。9代目理事長として90名弱のスタッフの先頭に立つ濱岡理事長は、安全研について「正直もっと知名度が高いと思っていました(笑)。知る人ぞ知るというところですが、社会全般にとって非常に重要な役割を果たす、貢献できる存在であることをもっとアピールしていく必要があります」。

一方で「生産者にとって遠い存在ではないことをわかってほしいですね。生産性を著しく低下させる疾病の確認検査などについてはモニタリング検査をお勧めします。もちろん家保など行政との情報共有は不可欠ですが、気軽に直接ご相談下さい」。

最先端の技術と高い専門性を武器に、これからますます生産現場の大きな支えとなっていただけることと思います。(編集部)

編集後記

デルタ株の猛威もようやく先が見えてきたような。さて、養豚界でのバイオセキュリティもさることながら、人間同士のバイオセキュリティレベルの評価はどの位なのでしょう。それはさておき、今年の畜産統計が2年ぶりに発表されました。養豚では、子取り用雌豚の飼養農家が2年前より420戸減少して3040戸に。子取り用雌豚の飼養頭数は3万頭弱減少して82万頭強に(肉豚出荷頭数約60万頭減:3.6%)。目の前に突き付けられた代替肉は、今の豚肉消費を脅かすのか?棲み分けになるのか?脱炭素畜産の可能性はあるのか?これからの協会の10年は今までと違う取り組みになりそうです(世)。



日本SPF豚協会認定農場産シール
このマークは
日本SPF豚協会の
登録商標です

日本SPF豚協会だより

第85号 2021年10月1日発行(季刊)
発行 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-8-2
TEL.03-5835-5375 FAX.03-5835-5376
e-mail:j.spf.a@nifty.com
<http://www.j-spf.com/>
発行人 北島 克好
編集人 藤田 世秀